

科目名	日本文法特講		科目 コード	B53042	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
						30時間				
区分	自由選択科目	選択	担当者名	藁科 勝之				授業 形態	講義	単独
授業の 概要	<p>テーマ：古代語から近代語への文法・語法の変化 中世から近世の話しことばを中心に、文法、語法等の事象について、具体的資料に基づいて考察する。 その資料として『醒睡笑』を読むが、これには会話も多く、この時期の話しことばが反映され、言語資料として価値が高いものである。また内容的には笑話が主で、落語の祖の一つでもあり親しめるものである。</p>									
到達 目標	<p>1. 変体仮名を読めるようになる。 2. 古代語から近代語への文法・語法の変化の諸事象について、用言、助動詞、助詞の変化、交替を説明できる。 3. 『醒睡笑』の日本語史資料としての価値を理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	はじめに		日本語史における近代語について							
第2回	日本語の近代化—中世語から近世語へ		古代から近代への変化							
第3回	『醒睡笑』とは何か		仮名草子、笑話 安楽庵策伝について						醒睡笑テキスト 配付	
第4回	醒睡笑翻刻(1)		醒睡笑の仮名字体、表記法 各自が翻刻を試みる (以下の回ごとに、それぞれ翻刻を行なう。)							
第5回	醒睡笑解釈(1)		用言の活用(1) 動詞							
第6回	醒睡笑翻刻(2)		各自の翻刻の検証							
第7回	醒睡笑解釈(2)		用言の活用(1) 形容詞、形容動詞						中間レポート 課題提示	
第8回	醒睡笑翻刻(3)		各自の翻刻の検証							
第9回	醒睡笑解釈(3)		体言の変化							
第10回	醒睡笑翻刻(4)		各自の翻刻の検証							
第11回	醒睡笑解釈(4)		助動詞の変化							
第12回	醒睡笑翻刻(5)		各自の翻刻の検証							
第13回	醒睡笑解釈(5)		助詞の変化と交替							
第14回	醒睡笑における近代語		品詞ごとにまとめる						最終レポート提出 の通知	
第15回	まとめ		近代語文法の総括							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>3分の2以上の出席を条件として、 (1) 中間レポート…必要な調査、データの収集を適切に行っているか、それらを用いての説明、主張が説得的であるかどうかを総合的に評価する(40%)。 (2) 最終レポート…各自が設定したテーマに即して、必要な先行文献調査を行なっているか、データの収集、処理は適切か、それらを踏まえての説明記述が論理的かどうかを総合的に評価する(60%)。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>影印版は印刷・配付する。 参考書、参考文献等は、授業時に随時紹介する。</p>									
留意点	<p>国語辞典・古語辞典、漢和辞典、その他工具書を使いこなすこと。</p>									